

2016-B

Ⅲ41-B

拠出金・基金
の名称

国連大学拠出金

種 別

☒イヤマークのみ ☐一部イヤマーク

【拠出先の国際機関名】国際連合大学(UNU)

【所管官庁担当局課・室名】

農林水産省大臣官房国際部海外投資・協力グループ/農林水産技術会議事務局国際研究官室

【当該任意拠出金の目的・用途等】

国際連合大学に拠出し、持続的な農業のための研究推進と一体となった実習型の研修を通じた途上国の研究能力の向上と、現地に根ざした技術の着実な普及を図り、世界の食料増産に貢献する。

【最近3年間の我が国支払額及びODA率】

単 位	邦 貨 (千 円)	外貨1 (千米ドル)	外貨2 (千)	レート	ODA率(%)
平成28年度	24,727	206	-	1米ドル=120円	100%
平成27年度	31,353	285	-	1米ドル=110円	100%
平成26年度	30,718	317	-	1米ドル= 97円	100%

【当該任意拠出金等の意義、成果等に関する我が国としての評価】

世界の人口増加や気候変動に伴い、食料・環境問題は我が国及び国際社会が共同で取り組むべき課題であり、とりわけ途上国においては、技術革新による生産性の向上を図ることが重要である。このため、地域の実情に合わせ、技術を開発・適用できる能力を有する途上国研究者を、国際的な研究機関の協力を得て育成することにより、途上国の農業研究体制の強化を図り、世界の食料安全保障への貢献に資する本事業の必要性は高い。

加えて、本事業は、平成21年11月のAPEC食料安全保障担当大臣会合で採択されたAPEC行動計画に位置付けられるとともに、平成23年10月のASEAN+3農林大臣会合の新規協力案件としても承認されており、一定の評価を得ている。

なお、平成28年度は、8件の研修プロジェクトを実施し、7ヶ国28名の途上国若手研究者の育成を実施した。また、研修で習得した技術が現地に着実に適用されるよう、研修終了後のアクションプランを作成させるとともに、アクションプランに基づいた実施状況を確実にフォローアップするなど、効率的かつ効果的な事業運営を行った。

【備考】